

一般社団法人 東海木造住宅協会
熊本地震から見えた構造設計

一般社団法人東海木造住宅協会
代表理事 鈴木貴雄
(計 1 枚)



拝啓 貴社ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

想定外の震度7の連続地震により残念ながら多くの木造住宅が倒壊しました。倒壊した住宅は日本建築学会の現地調査によれば、旧耐震基準の住宅が大半を占めるものの、1981年以降の新耐震基準の住宅も相当数に達し、また2000年以降の新・新耐震基準の木造住宅の倒壊も確認されております。

衝撃的なこの事実に対して、木構造を専門とする佐藤実氏は発災直後から延べ14日に渡り自らの足で現場をくまなく歩き、実務者の視点で被害の調査と分析を行っておられます。長年にわたり木造住宅の耐震設計をテーマに「構造塾」を主宰して来られた同氏は、現地調査から得られた知見を実務者に提供すべく、既に全国各地で熊本地震緊急セミナーを40回以上開催しております。大規模地震が発生しても万全の備えとなるよう、木造住宅の耐震設計のあるべき姿について鋭く解説して頂きます。

参加をご希望の方は、下欄に必要事項をご記入の上、**10月31日(月)までに**FAXにてご返信、もしくは営業担当までお渡しください。多くのご参加をお待ちしております。 敬具

記

- 日時 11月2日(水) 13:30~15:30 (13:00~受付)
- 会場 後藤木材(株) 本店 3階会議室 (岐阜市大倉町12 TEL. 058-271-3000)
- 受講料 無料
- 講師 株式会社 M's 構造設計 代表取締役社長 佐藤 実氏

1968年生まれ、横浜市在住、一級建築士、構造設計一級建築士、1990年東北工業大学卒業、(株)佐藤住建を経て、現在(株)M's 構造設計代表取締役。2010年東京大学大学院修了。2010年「構造塾」設立。構造計算に関する研修、セミナーを各地で開催。専門は木質構造建築物の構造設計・構造計算、地盤判定。著書「最高に楽しい木構造入門」、「楽しくわかる!木構造入門」

- 内容 なぜ、木造住宅は倒壊したのか? 倒壊していない住宅との差はなにか?
古い建物の倒壊・築年数の浅い建物の倒壊・壁の配置バランスが悪い建物・旧耐震基準のRC造、S造・地盤の被害・土地選びで人生が変わる・液状化被害・構造計算された建物
※JBN主催の『熊本地震現地調査から学ぶ連続震度7でも倒壊しない耐震設計とは?』と同じ内容になります。

□■ 熊本地震から見えた構造設計 参加申込 ■□

11月2日(水)の熊本地震から見えた構造設計へご参加される方は、必要事項をご記入の上、**10月31日(月)までに**FAXにてご返信、もしくは担当営業までお渡しください。

御社名		TEL	
御出席者様		御出席者様	

FAX返信先

一般社団法人東海木造住宅協会 事務局 **FAX:058-271-5630**
ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。(TEL:058-271-3003) 以上